

「うすき竹宵」の応援隊

たけ よひ

今年で22回目を迎える「うすき竹宵」。
実行委員会と応援隊がつくりあげる
2日限定の秋の夜のイベントは、
長期存続の道を模索している。
考えてみよう、市民にできること。



恒例企画の般若姫行列のほか、多福寺では「コンテンポラリーダンス meets うすき水鏡」が予定されている。国民文化祭オープニングで演出・振付を担当したダンサーの穴井豪氏が登場。もちろん、新作オブジェや優しい灯りで浮かびあがる城下町の散歩も楽しんで、11月の夜は思いのほか冷えるので、寒さ対策も忘れずに。

「協働漸進」を目標に活動する実行委員会

晩秋の白杵といえば、やはり「うすき竹宵」だ。竹ほんぼり（灯籠）の温かな灯りは来場者を優しく包み、その灯りで浮かびあがる城下町はえも言われぬ風情がある。壮麗な般若姫行列や情緒ゆたかな箏曲もあわせて、古都・白杵に思いを馳せる人もいるはずだ。

「平成30年度第22回うすき竹宵」

いく「漸進」を組み合わせたものだ。「うすき竹光芸まつり」を前身として進化してきた竹宵。平成28年に開催された20回目は来場者数が約10万人に達し、名実ともに白杵市の代表的なイベントとなった。

数年ほど前から課題となっているのが、応援隊の体制と後継者育成である。実行委員会のメンバーのほとんどは、白杵市に事業所を構える個人事業主。生まれ育った町の活性化のためにという熱い想いが、各自の労働時間を調整して、ほんぼり製作や本番の運営に奔走させるのだ。来場者が増え、イベントへの期待の高まり

の開催日は11月3日（土・祝）・4日（日）で、実行委員会の作業はすでに大詰めを迎えている。今年のはんぼりの本数は約2万本。竹1本から、およそ3本のほんぼりができることから、8月から9月上旬に数回に分けて約8千本の竹を伐採した。製作は9月中旬から始まっている。

「10月中旬までの1か月間がほんぼり作り。実行委員会も応援隊のみならず、自分の仕事を終えた夕方から作業します。一般の参加者、商店



第22回うすき竹宵実行委員会 実行委員長 穴見 清二

を感じるのに反して、穴見委員長は応援隊の体制に限界がみえてきたとこぼす。現在の竹宵の規模に対して、それを支える人員が足りないのがある。「市民には竹宵を通して、白杵のまちづくりをしているという意識を持つてほしいんです。この先も長

若い世代を中心に活動 応援隊の作業とは？

実行委員会の今年のスローガンは「協働漸進」。同じ目的のために、対等の立場で協力して共に働く「協働」、段階を追って少しずつ進歩して

く続けていくためには、大勢の応援隊の人力が不可欠なんです」

若い世代の応援隊がそれぞれの分野で活躍はしている。市内の小学生が竹の作品を製作して設置したり、高校生がガイドとなって来場者の道案内をしたりする。また、県内外の大学生が市内に滞在し、ほんぼり製作やオブジェの設置・撤去などの裏方作業を手伝っているという。幼いころに竹宵に親しんだ若者が、実行委員会の呼びかけで応援隊として活動を始めてもいる。実行委員会は、そのほかの世代が来場者として竹宵を楽しみだけでなく、応援

市民が参加できる ほんぼり作り・片づけ

隊となって竹宵の運営に関わることを考えてほしいと願う。

では、市民にどのような応援ができるのか。イベント前なら作業場でのほんぼり作り、イベント後なら月曜早朝に行われる片づけである。日曜の午後9時にほんぼりを消灯し、9時半ごろから多数のトラック車両が出勤してほんぼりを撤去する。翌朝はヘラワイヤーブラシを使って、ほんぼりから溶けてたロウを削ぐ。昨年は実行委員会を含めて50〜60人が集まり、1時間程度の作業を行った。今年も月曜早朝の片づけは予定されている。

竹林の荒廃が問題となり、わずかも里山の整備に効果があると考えられて始めた竹灯りの企画。回を重ねることにほんぼりの数が増え、趣向を凝らした作品が登場してき



ほんぼりから溶けてたロウが路上で固まるため、翌朝はヘラワイヤーブラシで削ぐことに。昨年は実行委員会のほか、小学生の保護者が作業に参加した。

た。2日限定の秋の夜のイベントは県内外からたくさんの人々が訪れるほどに知名度を高め、実行委員会の参加者も1000人を超えるほどに成長した。

初めて竹宵に関わる市民にとって、いきなりの「協働」は難しいかもしれない。しかし、気負わずにできることがあるなら応援隊として活動するのはいかがだろうか。実行委員会は市民の参加を心待ちにしている。「一人ひとりが「漸進」した先に、白杵のまちづくりが見えてくるだろう。」



1 8月から9月上旬にかけて、竹を作業場へ搬入。一本の竹を長さ50〜80cmの筒状に切断して、一つの「竹ほんぼり」が完成する。2 地域の人たちや応援隊が工夫して製作するオブジェは新作のことが多く、そのたびに話題となる。どのようなオブジェが設置されるかは、来場してからのお楽しみ。3 応援隊（一般参加）のみならず、実行委員会のメンバーとともに、竹ほんぼりの製作に汗を流す。4 日曜の午後9時に消灯して、15分から30分はロウが固まるのを待つ。その後、ほんぼりを一斉に撤去。生活地域では音をたてないよう気をつけながら、トラックでほんぼりを運び出す。



平成30年度うすき竹宵ポスター

応援隊の活動に興味のある方
お問い合わせはこちら
うすき竹宵 実行委員会事務局
(白杵市観光交流プラザ)
TEL.0972-64-6080